

# 地域とともにある学校づくりをめざして

【周防大島町 東和中学校区】

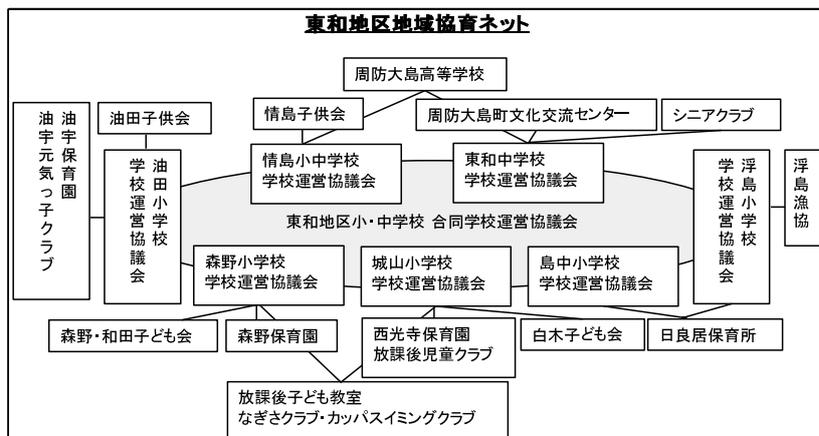
## 地域の概要

東和中学校区は、周防大島町の東南部に位置し、自然環境に恵まれた地域です。旧東和町時代から、役場などの主要な施設が集まっており、現在も町教委・図書館等があることから、学校教育と社会教育に大変協力的な風土があります。

人口	3,046人	
世帯数	426世帯	
対象校 及び 児童 生徒数	東和中学校	71人
	情島小中学校	17人
	城山小学校	47人
	森野小学校	29人
	油田小学校	14人
	島中小学校	24人
	浮島小学校	13人

## 組織の内容

東和中学校区では、小・中合同学校運営協議会を地域協育ネット協議会と捉え、学校関係者と地域関係者が一同に集まって、15年間の子どもの学びや育ちについて熟議を行いました。この場で話し合った内容を各校のコミュニティ・スクールに反映させ、子どもたちの充実した学校生活に向けた取組に結び付けたいと考えています。



今年度は、「東和中学校区で子どもに付けさせたい力」というテーマで熟議を行いました。学校関係者と地域関係者、行政関係者 24 名で協議した結果、「周防大島町の自慢ができる子ども」「自分の力や可能性を信じる子ども」等の意見が出されました。また、子どもに期待したいことを話し合う中で、中学校区で連続性のある教育活動を行う必要性を改めて認識することができました。現在、熟議の結果をもとに活動計画の策定を検討中です。

## 特色・重点的な取組

### ○ 学校における地域の方との交流活動「島中ふれあいタイム」

百人一首やしめ縄づくりなど、地域の人を学校に招いて一緒に活動しました。子どもたちの地域への意識が高まり、また、地域住民、特に高齢者の学校や子どもへの理解が深まりました。

### ○ 保護者・地域と連携した防災教育

「地域を見つめ、生きる力を育む防災教育」というチャレンジプランを掲げ、大地震とその後の津波に対応する力を育てる防災教育に取り組みました。子どもが保護者・地域の方と相談しながら防災安全マップを作ったり、地域の人と一緒に防災カルタ遊びを楽しんだりすることで、防災に対する意識が高まりました。

### ○ 起業家体験学習の取組

中学生が「道の駅とうわ」で開催されたルーラル・オレンジ・フェスタに参加しました。地域の人の協力を得ながら開発した商品を販売することで、子どもたちが「働く」という世の中の仕組みの一端にふれました。

## 主な活動の紹介

### ○ 学校における地域の人との交流活動「島中ふれあいタイム」

島中小学校は、年々児童数が減少していますが、学校を活性化したいという地域の人々の温かい思いに支えられて、定期的に様々な交流活動に取り組んでいます。

期日	内容
6月 5日	お年寄りの体力測定
7月17日	臨海教室
11月20日	かるた・百人一首大会
12月18日	門松・しめ縄づくり
1月15日	昔の遊び
2月18日	感謝の会



お年寄りの体力測定の様子

6月に高齢者を招待して体力測定

島中ふれあいタイム年間計画

を実施した際には、学校運営協議会の委員をはじめ、多くの地域の高齢者が参加しました。子どもが種目の表示を作成して会場の準備をしたり、高齢者が体力測定後に年代別体力測定の平均値を尋ねたりするなど、学校と地域とが融合し、人々が自然に関わり合う姿が見られました。

### ○ 保護者・地域と連携した防災教育

城山小学校は、平成24年度に山口県教育委員会の「実践的防災教育推進校（地震・津波災害）」に指定され、地域ぐるみで防災教育に取り組んできました。防災教育を実践する時には、常に保護者や地域との連携を意識し、防災のために多くの人々が関わってくださっていることを子どもに伝え、防災に関する意識が高まるようにしました。



防災マップ作りの様子

また、子どもが保護者・地域の方と相談しながら防災安全マップ作りをしたり、「ふれあいの会」において、手作りの「城山小防災カルタ」をしたりする等、防災への意識が継続する取組をしました。これらの取組を通して、子どもの地震・津波災害に対する心構えができたとともに、保護者や地域と連携した活動をしたことにより、地域における防災意識も高まりました。



「防災カルタ」遊びの様子

### ○ 起業家体験学習の取組

東和中学校は、キャリア教育の一環として起業家体験学習に取り組みました。東和地区の特産物である「東和金時」に着目して商品開発をした班は、菓子製造販売をする方法を学び、地域の人々の協力を得ながら東和金時クッキーを販売しました。ルーラル・オレンジ・フェス当日は、約600個のクッキーがあつという間に完売し大盛況でした。



クッキー販売の様子

## 成果と課題

交流活動の取組を通して交流や支援の輪が広がり、「地域の中にある学校」から「地域とともにある学校」に変容しつつあることを実感しています。また、防災教育や起業家体験学習の取組を通して、地域住民や保護者が「子どもは地域の宝」「子どもたちの教育に関わるのは先生だけではない」と意識するようになりました。課題は、人口減少や高齢化が急速に進む中、今後も活力ある教育を進めていくために、一人でも多くの地域の方と協働した取組を続けていくことです。

## 今後の取組

子どもも大人も「ともに楽しみ」「ともに学び」「ともに育つ」という発想で実践を重ねることによって人が育ち、やがて地域の大きな力につながると考えます。地域の人々が学校や子どもに関わることで元気をもらったり、生きがいを見出したりする取組を、今後も続けていきたいと考えています。